

文法を楽しく!!

「は」と「が」(2)

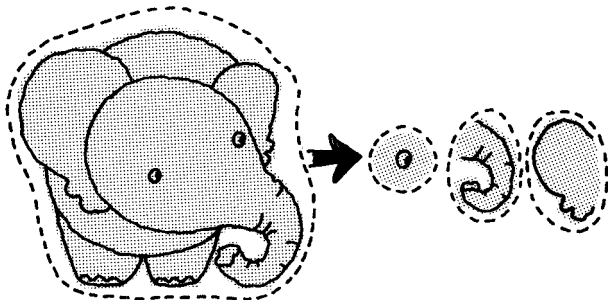
通信で習った項目: 「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と

前回は「は」と「が」の使い方の基本を勉強しました。今回はもう少し突っ込んで考えていきたいと思います。皆さんは次の文の a と b の違いがわかりますか。(2) と (3) は宿題でしたね。

- (1) a. 象は鼻が長い。
b. 象の鼻は長い。
- (2) a. 林さんが帰るとき、_____。
b. 林さんは帰るとき、_____。
- (3) a. 今日は友達と東京へ行くつもりです。
b. 友達と東京へ今日は行くつもりです。
- (4) a. 子供の結婚式で泣かなかった。
b. 子供の結婚式で泣きはしなかった。

1. 皆さんが象の姿を頭に思い浮かべて、象について何か話そうとするとき、もう頭の中では「象は・・・」という言い方が始まっています。たぶん象全体を思い浮かべ、そのあとで、象の目や鼻や耳など、象の部分を思い浮かべていくでしょう。

象 → 鼻 目 耳 ……



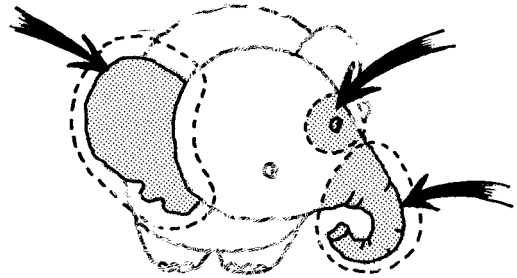
そのとき出てくる文が (1) a のように、

象は鼻が長い。象は目が小さい。象は耳が大きい。…

です。これらの文では、「象」が話の中心、つまり、主題(トピック)で、目や鼻、耳などは一部分でしかありません。

一方、象の全体ではなく、象の目や鼻や耳などの部分に注目して、その部分について何かを述べようとするときは、(1) b のように、

象の鼻は長い。象の目は小さい。象の耳は大きい。…



となります。ここでは「象の鼻」「象の目」「象の耳」が話の中心で、象そのものは主題(トピック)ではありません。

2. 皆さんは (2) の a b の文を完成してみましたか。次の i, ii は a b どちらに続けるといいでしょうか。

- i いつも「失礼しました」と言います。
- ii 私もいっしょに帰ろうと思います。

答は a - ii、b - i です。

- a. 林さんが帰るとき、私もいっしょに行こうと思います。
- b. 林さんは帰るとき、いつも「失礼しました」と言います。

a では「帰る」のは誰ですか。林さんですね。では、「いっしょに行く」のは? そうです。「私」ですね。

b では「帰る」のは……林さんですね。では、「失礼しました」と言うのは誰ですか。やはり、林さんですね。ここでわかるのは、a の「林さんが」は「帰る」にしかかからない(影響を及ぼさない)のに対して、b の

「林さんは」は「帰る」だけでなく、うしろの文の「いつも…と言います」までかかって（影響を及ぼして）いるという事です。

a. 林さんが帰るとき、私も いっしょに行こうと思います。

b. 林さんは 帰るとき、いつも「失礼しました」と言います。

このことを文法的に言うと、「が」は小さくかかる。「は」は大きくかかる。」ということになります。次の(5)も同じです。

(5) a. 鳥が 飛ぶとき、木の枝が 揺れる。

b. 鳥は 飛ぶとき、木の枝を揺らす。

3. (3) aと(3) bはどこが違うでしょうか。「今日は」の場所が違いますね。aでは文の一番前に、bでは動詞のすぐ前に来ています。「今日は」の場所が違うことで、意味の違いがあるのでしょうか。次の会話ではaとbのどちらを使えばいいか考えてください。

【会話1】 A：こんにちは。いいお天気ですね。

B：暖かいですね。

A：どこかへ行きますか。

B：ええ、()

A：そうですか。いいですね。

【会話2】 A：きのう友達と東京へ行かなかったんですか。

B：ええ、ちょっと忙しくて。

A：いつ行くんですか。早く行ってくださいよ。

B：すみません。()

A：きっと行ってくださいよ。

会話1にはaが、会話2にはbが当てはまります。会話1では「今日どこへ行くのか」ということが話題になっているので、Bの答は「今日は友達と東京へ行行くつもりです。」となります。一方、会話2では、Bはきのうも東京に行かなかったので、Aから早く行くように催促されています。それで「きのうではなく、明日でもなく、友達と東京へ今日は行きます」と「今日」を強調して答

えています。「今日」をほかの日と比べて、対比的に取り上げています。*

【今日】に限らず、「名詞+は」が動詞のすぐ前にあると対比的な意味合いを持つことが多くなります。次の(6)(7)の「は」も対比を表しています。

(6) 魚は食べますが、肉はちょっと…。

(7) 田中さんからメールが来るけれど、山田さんからは来ない。

このように、「は」は主題(トピック)だけでなく、対比を表します。

* 「今日は」を強く発音すれば、会話2のBに「a. 今日は友達と東京へ行行くつもりです。」が来ることもできます。

4. (4) のaとbはどう違うでしょうか。aには「は」がありませんが、bは「泣かなかった」の中に「は」が入り込んで「泣きはしなかつた」となっています。

【会話3】 A：お嬢さんのご結婚、おめでとう。

B：ありがとう。

A：結婚式では泣いたんじゃない？

B：a. うん、泣かなかったよ。楽しかったよ。

b. うん、泣きはしなかつたけど…。

B aとB bを比べてください。B aは単に「泣かなかった」という事実を述べていますが、B bでは、「泣かなかった」と何かを、対比的に想像させる言い方をしています。「泣かなかったけど、泣きそうになった」とか「泣かなかったけど、胸がいっぱいになった」「泣かなかったけど、涙がこみ上げてきた」というようなことを想像させます。このように「は」は、動詞の中に入り込むことによって、対比的に、ほかのことを想像させる働きを持っています。これも「は」の対比の働きのひとつです。

今回は前回に引き続き、「は」と「が」の用法について説明しました。前回の「まとめ」に今回のポイントを加えると、「は」と「が」の全体像が見えてくると思います。

参考文献

三上 章 (1960) 『象は鼻が長い』くろしお出版
 市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

このコーナーの担当者：市川保子(日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。

「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。

ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm> です。